

にいがた老舗物語

1899(明治32)年に創業した小島塗装店(上越市)は、市内で最も古い塗装会社の一つで、雪深い城下町高田と深い関わりを持ちながら確かな仕事を続けてきた。創業者は漆塗りの職人で、高田に旧陸軍第13師団が設置されると、軍発注の仕事に追われた。家業を継いだ四女はスキ一の塗装にも乗り出した。現在は個人住宅から公共施設まで幅広く仕事を請け負う。3代目の現社長は、地域の神社整備や寺院の山門修復など、社会への「恩返し」にも積極的に携わっている。

高田出身の創業者、小島外吉は明治の職人を地でいくような男だった。孫で3代目の清介社長(76)によると、外吉は10代の頃、新井(現妙高市)の仏壇店に年季奉公し漆塗りの技術を磨いた。10年間の奉公の後、99年に高田の実家に戻って漆塗り業を本格的に始めた。

主な仕事はふすまや板戸、額装の漆塗りだったという。冬場は茶たんすや飯わん、おひつなど木製品の漆を塗り直して修繕した。当時は高田藩の名残が街

確かな職人仕事 小島塗装店 (上越市) 1

漆塗り業が出发点に

陸軍の受注で活気づく

にあった。先祖代々の刀を大切に守っている家も多かった。外吉は、刀の鐔の部分に細心の注意を払いながら、集中力を切らすことなく仕事を進めなければならぬ。職人だった。清介社長は子どもの頃に見た外吉の姿を思い出す。外吉は仕事の最中に客が訪ねてくると

「祖父は妥協を許さない

一方で酒好きで社交的な

面もあった。仕事の合間や

仕事が終わった後には多く

の客や職人が出入りし、酒

に活気づいた。

高田に旧陸軍第13師団が設

営された。城下町高田は軍

都となり、地域経済は大い

に活気づいた。

吉は4人の弟子を持つよう

になった。弟子たちは住み

込みで働き、食事も家族と

一緒に取った。清介社長は

近所の人から「外吉さんの

家は笑いが絶えない」と聞

かされていたという。

外吉は美術品を収集する

のが好きだった。工賃が手

に入るたびに絵画や掛け軸

などをしきりに買い求めて

いた。そうして集めた美術

品を外吉は惜しむことな

く、仕事をくれた客に「お

礼」として渡していたとい

う。清介社長は「祖父は客

を大切にするのが信条だっ

た。客に工賃を催促するよ

うなことはしなかった」と

語る。

時代はやがて昭和初期の

世界恐慌に突入する。それ

まで仕事が順調で、生活に

不自由なかった外吉だが、

仕事は激減し、一から出直

すことになる。



漆塗り職人で創業者の小島外吉が使っていた仕事場。現在は孫の清介社長の自宅になっている。上越市

軍は砲弾の内部に漆を塗る仕事を外吉に発注した。漆は火薬がしけるのを防ぐからだ。細かい受注内容は分からないが、「仕事がとても忙しく、お金もたくさん入って良かった」と祖父から聞いた」と清介社長は話す。

軍からの受注が増え、外

会社概要

株式会社小島塗装店

創業	1899年
会社設立	1989年
資本金	1千万円
売上高	約1億1300万円 (2014年12月期)
事業内容	建築、住宅、橋梁(きょうりょう) 塗装
従業員数	13人